

おひざのうえで 2024^③

(副園長の子育て応援通信)

「自ら育つ力」

せんりひじり幼稚園 副園長 安達かえで



遊びや生活の中でのこどもたちを見てみると、日々何かを感じ考え、試してみたりチャレンジする姿があちこちで見られます。難しいことややりにくいことを「やって」と助けを求めることもありますが、自分でできると思った瞬間、大人の手を押しつけて自分でやり始めたりします。「自分でできるかも」とか「やってみたい」という意欲は、自己肯定感に基づいて育つ大きな力で、これが育てば全ての力が飛躍的に伸びていくといっても言い過ぎではないと思っています。

着替えや片付けや身の回りのことなど、なかなかしようとしないうちに聞くと、「家ではママがやってくれるもん」という答えが返ってきたりします。(ママはここまでやってあげているのか・・・ママは大変だな)と思います。子どもに何でもやってあげることが「親としての務め」(いい親)のように勘違いしてしまうことがあるかもしれません。そうゆう私も、孫が来ると何でもやってあげたくなります。みかんの皮(自分で剥いて食べられるのに)綺麗に剥いてあげて出したり、お風呂上がりはバスタオルを用意してあげて全身拭いてあげてパジャマを着やすいように並べてあげたり・・・普通に考えると、全部自分でできるのについやってあげたくなってしてしまうのです。そして、娘に「自分でできるから見ててあげて」と制されるのです。ばあばの自己満足が孫の自立の妨げにならないように「自分でできるのかっこいいね」と見守るように自分に言い聞かせます(我が子の時は、自分でさせていたのですが・・・)

身の回りのことが自分でできるようになると、遊びの場面でも飛躍的にチャレンジできるようになる姿が見られます。生活面で自立している子どものお母さんお父さんを見てみると、共通するのが「きっとできるだろう」と信じて肯定的な眼差しで子どもを見守っている姿です。「まだできない」と思っていた『トイレでうんち』が、「きっとできる」と思って子どもに向き合ったら、案外すんなりできましたという声も聞かれます。

先日、ばら組の部屋に入ると、なな先生といく先生が部屋の棚を動かして模様替え中でした。暑すぎて冷房が全体に効かないので、冷房の近くに活動のコーナーを移動し、ロッカーを南側に移動させているところでした。「こっちの方が涼しいかな」とあれこれ考えながら移動を始めると、遊んでいた子ども達が寄ってきて一緒に棚を押してくれたり、先生は何も言っていないのに、クーゲルバーンのコーナーのおもちゃやタイルカーペットをせっせと新しいコーナーに運んで自分たちで組み立てたり、移動させた後に出たゴミをホウキで履いてくれる子もいました。広く空いたコーナーが綺麗になると、嬉しそう踊りだす子もいておもしろい場面でした。年長になると大人が何も言わなくても主体的に「自分たちの遊びや生活の場を整える」ことができるのですね。

夏のお出かけなど、子どもたちの意見を参考に計画を立てているご家庭も多いかと思います。意見を聞くだけでなく、子どもたちにも準備や何かの役割があるといいですね。連れて行ってもらう旅行ではなく、主体的に参加できるようにすることが、さらに自ら育つ力を支えることになるでしょう。いい思い出ができますように。